

平成 29 年度事業報告書

(平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日)

会員の移動状況

会員種別	員 数		増減数
	平成30年2月28日 現在	平成29年2月28日 現在	
名誉会員	52	57	-5
永年会員	279	269	10
正会員	3928	3699	229
学生会員	472	725	-253
維持会員	206.5	212.5	-6
特別会員	540	553	-13
公益会員	359	373	-14
計	5836.5	5888.5	-52

1. 第 6 回定時総会 (定款第 17 条)

日時 平成 29 年 5 月 9 日 (火) 14 時～16 時
場所 アリアル会議室 ANNEX 五反田 (東京都品川区西五反田 1-3-8) 参加者数 93 名

2. 会誌、研究報告及び資料の刊行 (定款第 5 条(1))

- (1) 学会誌「ぶんせき」を下記のとおり発行した。
- | 発行年月日 | 巻 号 | 発行部数 |
|-------------------|--------|-------|
| 自 平成 29 年 3 月 5 日 | 2017 3 | 6,200 |
| 至 平成 30 年 2 月 5 日 | 2018 2 | 5,900 |
- 毎月 1 回 5 日に発行
- (2) 和文論文誌「分析化学」を下記のとおり発行した。
- | 発行年月日 | 巻 号 | 発行部数 |
|-------------------|------|-------|
| 自 平成 29 年 3 月 5 日 | 66 3 | 2,000 |
| 至 平成 30 年 2 月 5 日 | 67 2 | 2,000 |
- 毎月 1 回 5 日に発行
- (3) 英文論文誌「Analytical Sciences」を下記のとおり発行した。
- | 発行年月日 | 巻 号 | 発行部数 |
|--------------------|------|------|
| 自 平成 29 年 3 月 10 日 | 33 3 | 620 |
| 至 平成 30 年 2 月 10 日 | 34 2 | 620 |
- 毎月 1 回 10 日に発行
- (4) 英文論文誌「X-ray Structure Analysis Online」を下記のとおり発行した。
本誌はオンラインジャーナル。
- | 発行年月日 | 巻 号 |
|--------------------|------|
| 自 平成 29 年 3 月 10 日 | 33 3 |
| 至 平成 30 年 2 月 10 日 | 34 2 |
- 毎月 1 回 10 日に発行
- (5) メールマガジンを毎月 1 回発行した (配信数 3, 200)。
- (6) 次の書籍を編集し、発行した。
- ① 分析化学実技シリーズ機器分析編 15「走査型プローブ顕微鏡」(共立出版)
 - ② 「第 1 回 LC/MS 分析士三段試験解説書」(本会)
 - ③ 「第 3 回 LC/MS 分析士初段試験解説書」(本会)
 - ④ 「第 3 回 LC 分析士二段試験解説書」(本会)
 - ⑤ 「第 3 回 LC 分析士三段試験解説書」(本会)
- (7) 教育用 DVD 並びにビデオシリーズの頒布を行った。

3. 講演会、講習会及び研究会の開催 (定款第 5 条(2))

- [研究発表会]
- (1) 第 77 回分析化学討論会
日時 平成 29 年 5 月 27 日・28 日
場所 龍谷大学深草学舎 (京都府京都市) 参加者数 725 名
- (2) 第 66 年会
日時 平成 29 年 9 月 9 日～12 日

場所 東京理科大学葛飾キャンパス 参加者数 1,290 名

(3) Asia/CJK Symposium on Analytical Sciences 2017

日時 平成 29 年 9 月 9 日・10 日
場所 東京理科大学葛飾キャンパス 参加者数約 150 名

(4) 特別公開シンポジウム「チュートリアルセッション 分析化学実験 基本の"き" (その基本, おさえていただきますか?)」

日時 平成 29 年 9 月 9 日
場所 東京理科大学葛飾キャンパス 参加者数約 100 名

(5) 特別公開シンポジウム「産業界シンポジウム—企業における未来志向の最先端分析解析技術—」

日時 平成 29 年 9 月 10 日
場所 東京理科大学葛飾キャンパス 参加者数約 150 名

(6) 日本学術会議化学委員会化学分科会企画講演会「我が国の計測分析プラットフォームをどのように構築すべきか」日本分析機器工業会・日本分析化学会・科学技術振興機構 共同主催

日時 平成 29 年 9 月 6 日
場所 幕張メッセ国際会議場コンベンションホール 参加者数 約 200 名

[講習会]

- (1) 第 35 回分析化学基礎セミナー (無機分析編)
日時 平成 29 年 6 月 26 日・27 日
場所 弘済会館 参加者 75 名
- (2) 分析信頼性実務者レベル講習会「第 18 回金属分析技術セミナー」
日時 平成 29 年 7 月 6 日・7 日
場所 (株)オーム社第 1 ゼミルーム 参加者 19 名
- (3) 第 25 回分析化学における不確かさ研修プログラム
日時 平成 29 年 7 月 13 日・14 日
場所 日本電気計器検定本社 参加者 24 名
- (4) 分析信頼性実務者レベル講習会「第 21 回水中の微量金属分析」
日時 平成 29 年 10 月 13 日及び平成 30 年 1 月 26 日
場所 (株)オーム社第 1 ゼミルーム 参加者 16 名
- (5) 分析信頼性実務者レベル講習会「第 17 回ダイオキシン類分析技術セミナー」
日時 平成 29 年 10 月 19 日・20 日
場所 (株)島津製作所東京支社 参加者 17 名
- (6) 分析信頼性実務者レベル講習会「第 16 回セラミックス原料・鉱石類分析技術セミナー」
日時 平成 29 年 10 月 26 日・27 日
場所 (株)オーム社第 1 ゼミルーム 参加者 13 名
- (7) 第 26 回分析化学における不確かさ研修プログラム
日時 平成 29 年 11 月 9 日・10 日
場所 日本電気計器検定本社 参加者 20 名
- (8) 第 7 回分析化学の基本と安全セミナー
日時 平成 30 年 2 月 1 日
場所 (株)島津製作所東京支社 参加者 51 名

4. 調査、研究及び建議 (定款第 5 条(3))

- [JIS]
- (1) 平成 29 年度区分 B の日本規格協会の委託に基づき、JIS K 0050「化学分析方法通則」の改正原案作成について、平成 29 年 9 月 30 日、平成 29 年 11 月 24 日、平成 30 年 2 月 7 日に委員会を計 3 回開催した。
- (2) 平成 27 年度区分 C の日本規格協会の委託に基づき、「分析化学用語 (熱分析部門)」新規制定の原案作成を行ったが、再審議案件となり、平成 29 年 11 月か

ら平成30年1月に計3回のコア委員会を開催した。最終版を平成30年2月7日に最終版を経産省 国際標準課に提出した。

[技能試験]

事業所を対象とした技能試験を次のとおり実施し、結果に基づく「技能試験成果報告書」を公開した。

- (1) ISO/IEC 17043に基づく技能試験「第11回トレーサビリティと不確かさ理解のための分析」
- (2) ISO/IEC 17043に基づく技能試験「第19回ダイオキシン類分析(底質)」
- (3) ISO/IEC 17043に基づく技能試験「第13回プラスチック中有害金属成分の分析」(有害物質規制/RoHS指令対応)
- (4) ISO/IEC 17043に基づく技能試験「第12回食品成分の分析(粉乳)」
- (5) ISO/IEC 17043に基づく技能試験「第2回放射能分析(しいたけ)」
- (6) ISO/IEC 17043に基づく技能試験「第1回土壤中無機成分及び残留農業分析」

[標準物質]

これまで開発してきた各種標準物質のうちダイオキシン類分析用土壌、河川水の安定性試験を実施し、保管、管理並びに社会への供給活動を継続して実施した。

5. 関係団体との協力

- (1) 次の諸団体に参画し、種々の調査・建議に協力した。
日本学術会議, JABEE/化学分野 JABEE 委員会, (一社)化学情報協会, (公社)新化学技術推進協会グリーンサステイナブルケミストリーネットワーク, (公社)日本工学会, 標準物質協議会, ASIANALYSIS 国際諮問委員会, Asian Analytical Chemistry Network
- (2) 次の委員会に委員を派遣して各種規格の立案等に協力した。
(一財)日本規格協会, (一社)日本化学工業協会, (国研)産総研計量標準管理センター, (一社)日本試験協会, (公社)日本セラミックス協会, (一社)日本環境測定分析協会, (公社)日本適合性認定協会, (一社)日本分析機器工業会

6. 研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第5条(4))

- (1) 2017年度学会賞を次のとおり授与した。
今任 稔彦 君「新規センシング技術を用いるフロー分析法の開発」
金澤 秀子 君「機能性高分子を用いた分離・分析システムの創製とその応用」
丹羽 修 君「微小電極や新規電極材料を用いる電気化学分析, センシング法の研究」
- (2) 2017年度学会功労賞を次のとおり授与した。
澁谷 康彦 氏「環状化合物・Schiff塩基の合成およびイオンセンサへの応用研究と学会への貢献」
高山 森 氏「高分子分析技術及びデータベースの開発と学会への貢献」
谷口 一雄 氏「X線および放射線計測技術の開発と学会への貢献」
藤田 芳一 氏「金属イオンとキサンテン系色素を用いる生体関連化合物の吸光光度法の開発と学会への貢献」
- (3) 2017年度技術功績賞を次のとおり授与した。
伊永 隆史 氏「マイクロフロー分析システム及び小型質量分析デバイスの開発」
渡部 悦幸 氏「自動前処理を組み込んだ超微量環境化学物質測定システムの開発」
- (4) 2017年度奨励賞を次のとおり授与した。

- 川井 隆之 君「オンライン試料濃縮法を駆使した簡便かつ高感度なミクروسケール電気泳動システムの創出」
富田 峻介 君「機械学習を活用したタンパク質分析法の開発と細胞評価への応用」
半田友衣子 君「分子集合体の高次構造がもたらす空間を利用する物質分離と分離機構の解明」
南 豪 君「分子認識能を賦与した光学及び電気化学センサデバイスの開発」
安井 隆雄 君「ナノ構造特有の新規分離・検出原理発見と高性能生体分子解析」

- (5) 2017年度先端分析技術賞を次のとおり授与した。
JAIMA 機器開発賞
倉内奈美 氏・保田正範 氏・酒井啓司 氏・平野太一 氏・平野未希 氏・細田真妃子 氏
「球回転型粘土計の開発」
森田金市 氏・興 雄司 氏
「シリコーン光学系を用いた小型高性能分光分析装置の開発」

CERI 評価技術賞

中村 利廣 氏「環境分析用新規高機能標準物質の開発」

- (6) 2017年度有功賞を次のとおり授与した(敬称略)。
田路 勉 磯村 隆徳 桑原 晴彦 松崎 勝雄
小山みゆき 松田 昭吉 好田 照美 久保久仁治
佐川 博美 細川 清美 山本 潔 郡 宗一
和気 知子 山口 耕二 内池 明美 斎藤 良弘
川本 啓三 弘中 知美 中住 健二 大橋 晃子
石田 浩康 島田 憲一 宮内 芳治 横山 政昭
高柳 敏雄 高垣 英樹 濱登 等 高橋 弘
藤原 利行 新井 彰秀 山口 隆則 水落 幸江
高田 博次 沖本 恭子 馬原 忠典 早坂 由起
遠藤 英典 杉本 利夫 野澤 金男 帆足 昭成
磯部 睦美 平野 利明 田中 正人 角谷 孝義
水戸 隆幸
- (7) 2016年「分析化学」論文賞を次のとおり授与した。
論文題名『フィールドフロー直交型電気クロマトグラフィの開発』
著者名: 目方宏明・北川慎也・飯國良規・大谷 肇(名古屋工業大学大学院工学研究科)
掲載ページ: 「分析化学」第65巻第12号, 737~744ページ
- (8) 他機関による表彰及び研究助成に対し会員を候補者として推薦した。

7. その他前条の目的を達成するために必要な事業(定款第5条(5))

- (1) 分析士認証事業
①液体クロマトグラフィー分析士五段・四段・三段・二段・初段試験を行い, 合格者の登録を行った。
②LC/MS 分析士四段・三段・二段・初段試験を行い, 合格者の登録を行った。
③イオンクロマトグラフィー分析士初段試験を行い, 合格者の登録を行った。
- (2) 広報
広報委員会展望とトピックス委員会において, 第77回分析化学討論会及び第66年会研究発表の中で注目される研究内容を記者会見し, 展示, 小冊子の発行ならびにホームページを通して広報した。
- (3) 若手交流会
第77回分析化学討論会および日本分析化学会第66年会において若手ポスター賞選考を支援した。各支部での若手交流会企画を共催および支援した。
- (4) AACN

- Asian Analytical Chemistry Network に参加し、そのホームページを運用した。
- (5) 研究懇談会
研究懇談会活動を次のように行った。
- ①有機微量分析研究懇談会
【委員長：酒井達子（名城大学）、委員 12 名、会員数 193 名（個人会員 187 名、顧問 6 名）】委員会を 2 回。第 84 回有機微量分析研究懇談会、第 104 回計測自動制御学会力学量計測部会、第 34 回合同シンポジウムを 6 月 22 日～24 日、大阪府吹田市（大阪大学吹田キャンパス）で開催（計測自動制御学会力学量計測部会・大阪大学大学院工学研究科技術部と共催、日本分析化学会・日本化学会・日本薬学会協賛、大阪大学大学院工学研究科後援）し、特別講演 2 件、口頭発表 18 件、ポスター発表 22 件、不確かさセミナー、その他各委員会報告および技術研修会を行った。講演会（第 66 年会 9 月 10 日、東京理科大学葛飾キャンパス、招待講演 1 件）、第 11 回マイクロ電子天びん技術研修会（5 月 19 日、理化学研究所）、第 12 回マイクロ電子天びん技術研修会（9 月 19 日、京都大学大学院薬学研究所）、第 13 回マイクロ電子天びん技術研修会（1 月 26 日、理化学研究所）、第 6 回マイクロ電子天びんセミナー（座学）（11 月 28 日、東京大学弥生キャンパス）および第 1 回不確かさセミナー（5 月 26 日、日本計量会館）を開催したほか、会報 19 号を制作（2 月）した。
- ②ガスクロマトグラフィー研究懇談会
【委員長：前田恒昭（元国立研究開発法人産総研）、運営委員会委員 45 名、会員数 101 名（個人会員 42 名、団体会員 46 機関、名誉会員 13 名）】運営委員会を 5 回開催した。研究会開催数：7 回（第 350～356 回、特別講演会、JAIMA コンファレンスの講習会（GC 編とセパレーションサイエンス編）開催、分析化学年会での講演会を含む）。また第 23 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会（8 月 2 日～4 日麻布大学）を開催した。本部主催の日中韓シンポジウム 2017（東京理科大）開催支援した。ガスクロマトグラフィー誕生 60 周年記念事業として Web ページの更新を行った。会員からの情報、アーカイブ、活動報告、過去の講演要旨集等の WEB 掲載も行っている。ガスクロマトグラフィー研究懇談会設立 60 周年記念事業として表彰準備を行った。
- ③高分子分析研究懇談会
【委員長：渡辺健市（豊田合成）、運営委員会委員 15 名、会員数 149 名（個人会員 52 名、法人会員 97 社）】開催数：例会 5 回（第 387～391 回、第 388 回は 1 泊 2 日の夏期合宿として開催）。さらに第 66 年会において研究懇談会講演（9 月 11 日、東京理科大学）、第 55・第 56 回高分子分析技術講習会（明治大学駿河台校舎）、第 22 回高分子分析討論会（10 月 12 日・13 日、つくば国際会議場）をそれぞれ開催した。
- ④X 線分析研究懇談会
【委員長：辻 幸一（大阪市立大学）、運営委員 28 名、参与 9 名、会員数 139 名（個人会員数 122 名、団体会員 17 名）】開催数：例会 3 回（第 261～263 回）、運営委員会 2 回。「X 線分析の進歩」第 48 集をアグネ技術センターより出版したほか、第 53 回 X 線分析討論会（10 月 26 日・27 日、徳島大学常三島キャンパス、徳島、参加者 166 名）を主催し、講習会「粉末 X 線解析の実際」（7 月 12 日～14 日、東京理科大学神楽坂校舎）を共催した。本会浅田榮一賞を中西康次氏（立命館大学総合科学技術研究機構 SR センター）に授与し、X 線分析討論会において 2 件の学生賞を選考し授与した。
- ⑤分析試薬研究懇談会
【委員長：片山佳樹（九州大学）、運営委員会委員 17 名、参与委員 15 名、会員数 103 名（個人会員 100 名、賛助会員 3 名）】開催数：1 回。第 66 年会において、分析試薬研究懇談会（9 月 10 日、東京理科大学、講演 2 件）を開催した。
- ⑥溶液界面研究懇談会
【委員長：塚原 聡（大阪大学）、運営委員 13 名、個人会員 104 名】。開催数：1 回。東京理科大学で開催された第 66 年会の「界面・微粒子」セッションの中で 2 件の講演（9 月 10 日）を行った。
- ⑦液体クロマトグラフィー研究懇談会
【委員長：中村 洋（東京理科大学）、役員会役員の数：39 名、会員数：228（個人会員：162、団体会員：66）】開催数：12 回（第 309～320 回）。また第 20 回特別講演会・見学会（7 月 7 日、ニチレイグループ技術開発センター）、第 21 回特別講演会・見学会（11 月 17 日、化学物質評価研究機構）、第 23 回 LC & LC/MS テクノプラザ（2018 年 1 月 18 日・19 日、横浜情報文化センター）、LC- & LC/MS-DAYS 2017（11 月 30 日・12 月 1 日、アヤハレクサイドホテル）、運営委員会総会 I（8 月 1 日・2 日）、運営委員会総会 II（2018 年 2 月 20 日・21 日）、を開催した。このほか関東支部主催第 58 回機器分析講習会の第 2 コース「高速液体クロマトグラフィーの基礎と実践」（7 月 26 日～28 日）、及び JAIMA セミナー「これであなたも専門家」の LC 編（9 月 7 日、幕張メッセ）の担当とセパレーションサイエンス編（9 月 8 日、幕張メッセ）を共同担当し、第 13 回千葉県分析化学交流会（12 月 22 日、東京理科大学野田キャンパス）を後援した。また本研究懇談会編「LC/MS、LC/MS/MS Q & A 100 龍の巻」（オーム社）、「第 1 回 LC/MS 分析士三段試験解説書」（日本分析化学会）の実質的な編集・執筆を担当した。
- ⑧化学センサー研究懇談会
【委員長：久本秀明（大阪府立大学）、運営委員会委員 3 名、会員数約 40 名（個人会員約 40 名）】第 66 年会において「センサ IoT と分析化学の融合展開」に関するシンポジウムを行った（9 月 9 日、東京理科大学葛飾キャンパス）。学会内外の 7 名の講師をお招きし、ウェアラブルセンシング、プリンタバイオセンサ等、化学センサ関連のご講演をいただいた。多くの参加者があり、議論も盛況であった。
- ⑨電気泳動分析研究懇談会
【委員長：江坂幸宏（岐阜薬科大学）、顧問 7 名、常任委員 13 名、委員 34 名】第 37 回キャピラリー電気泳動シンポジウム（SCE2018、11 月、仙台）を共催したほか、懇談会講演会を 2 回（9 月年会時、東京及び SCE2018 時）開催した。また電気泳動分析懇談会賞（寺部茂賞）の表彰を行った。第 4 寺部茂賞は近畿大学薬学部鈴木茂生教授に授与された。
- ⑩イオンクロマトグラフィー研究懇談会
【委員長：伊藤一明（近畿大学工学部）、運営委員会委員 32 名、会員数 101 名（個人会員 90 名、維持会員 8 社、団体会員 3 社）】2017（第 14 回）日中韓分析化学シンポジウム（9 月 11 日・12 日、東京理科大学）を GC、HPLC、FIA、環境分析各研究懇談会と協力した。IC 講習会（9 月 6 日、JAIMA セミナー-4、IC 編、幕張メッセ）、IC 講演会 2 回（（9 月 8 日、JAIMA セミナー-12、SS 編、幕張メッセ、GC、HPLC 各研究懇談会と共催）、（9 月 11 日、東京理科大学、第 66 年会中）、第 34 回 IC 討論会（12 月 7 日 8 日、広島）を開催した。運営委員会を 3 回開催。IC 分析士初段認証試験の実施に協力した。
- ⑪フローインジェクション分析研究懇談会
【委員長：今任稔彦（九州大学）、運営委員会委員 50

名、会員数 136 名（個人会員 114 名、賛助会員 11 名、特別賛助会員 11 社 22 口）】講演会を 2 回（FLA 講演会（12 月 1 日、岡山理科大学）、年會会期中（9 月 10 日、東京理科大学）、講習会を 1 回（JAIMA セミナー6「これであなたも専門家－流れ分析編」（9 月 8 日、幕張メッセ国際会議場）、ワークショップを 1 回（11 月 30 日、岡山理科大学）開催したほか、Journal of Flow Injection Analysis 誌の発行（34 巻 1, 2 号）及びそのための編集委員会を 2 回（5 月 26 日、京都市内と 11 月、メール会議）、また褒賞委員会を 1 回（年會会期中、9 月 10 日、東京理科大学）開催した。CJK symposium on analytical science 2017（9 月 9 日・10 日、東京理科大学）を GC、LC、FIA、環境分析各研究懇談会と協力支援した。21th ICFA（9/3-9/8、Saint Petersburg）の共催を行った。また褒賞委員会を 1 回（6 月、メール会議）開催した。

⑫環境分析研究懇談会

【委員長：梅村知也（東京薬科大学）、委員 8 名、顧問 7 名、会員数 81 名（個人会員 78 名、グループ会員 3 名）】講演会を 1 回（第 32 回を 9 月 10 日第 66 年會の特別シンポジウムとして開催した。運営委員会（9 月 10 日第 66 年會）を 1 回開催した。メーリングリストにおいて関連情報を会員各位に適宜提供した。また Asia/CJK symposium on analytical science 2017（9 月 9 日・10 日、東京）を他の懇談会とともに協力支援した。

⑬表示・起源分析技術研究懇談会

【委員長：安井明美（(国研)農業・食品産業技術総合研究機構）、運営委員会委員 16 名、個人会員 61 名、団体会員 19 社】講演会を 4 回（ジョイント講演会＜第 16 回講演会＞：3 月 10 日 東京電機大学 千住キャンパス、ジョイント講演会＜第 17 回講演会＞：10 月 13 日 東京電機大学 千住キャンパス、ジョイントシンポジウム＜第 18 回講演会＞：12 月 20 日 フクラシア八重洲）開催した。9 月 9 日～12 日 第 66 年會にて講演会を開催した。運営委員会を 2 回開催した。

⑭レアメタル分析研究懇談会

【委員長：小熊幸一（元千葉大学）、運営委員会委員：11 名、会員数：20 名（個人会員のみ）】9 月 10 日に講演会ならびに運営委員会を第 66 年會会場（東京理科大学）にて開催した。

⑮熱分析研究懇談会

【委員長：西本右子（神奈川大学）、事務局担当委員 2 名、個人会員 18 名、団体会員 6 社】講演会を 1 回（9 月 11 日に第 66 年會会場において）開催した。JASIS2017 における講習会、JAIMA セミナー7「これであなたも専門家－熱分析編（2017 年 9 月 7 日）」を開催した。JIS 分析化学用語（熱分析編）の原案作成委員会に協力。第 1 回熱分析討論会（2018 年 1 月 18 日）を開催した。

⑯溶液反応化学研究懇談会

【委員長：山口敏男（福岡大学）、運営委員会委員 18 名、会員数 18 名（個人会員のみ）】講演会ならびに運営委員会を 9 月 9 日の第 66 年會（東京理科大学）で開催した。

⑰受託分析研究懇談会

【委員長：中田邦彦（株）総合水研究所）、運営委員会委員 17 名、会員数 24 名（個人会員 16 名、賛助会員 0 名、法人 8 口）。第 4 回総会、第 5 回セミナーおよび情報交換会（11 月 9 日、島津製作所イベントホール（東京））を開催した。セミナー演題 4 題。施設見学会（6 月 16 日、海洋研究開発機構 横須賀本部）を行った。例会（技術情報交換会および運営委員会）を 4 回開催した。

⑱電気分析化学研究懇談会

【委員長：前田耕治（京都工芸繊維大学）、運営委員会委員 27 名、顧問 3 名】5 月の第 77 回討論会にて討論主題「分野を超えて生きる電気分析化学」のシンポジウムを 2 日間にわたって主催し、依頼講演 10 件、一般講演 13 件の発表が行われた。また、9 月の第 66 年會では、シンポジウム「実試料に挑む電気分析化学」を主催し、8 件の依頼講演と活発な質疑が行われた。また、会期中に運営委員会を開催し、今後の運営について議論した。

⑲ナノ・マイクロ化学分析研究懇談会（平成 29 年度新設）

【委員長：渡慶次学（北海道大学）、副委員長：火原彰秀（東北大学）、会員数：約 30 名（個人会員のみ）】9 月 9 日に講演会（特別シンポジウム：ナノ・マイクロ化学分析の最前線）ならびに運営委員会を第 66 年會会場（東京理科大学）にて開催した。

⑳バイオ分析化学研究懇談会（平成 29 年度新設）

【委員長：佐藤守俊（東大院総合文化）】本研究懇談会は、バイオ分析化学の研究者間での情報交換や交流、共同研究の促進等を目的として、分析化学年會でのシンポジウムを企画した。雑誌（Analytical Sciences 等）においてバイオ分析関連の特集号企画を進める。また、発足 2 年目を迎え、運営委員会をさらに拡充・充実させると共に、ホームページなどでバイオ分析研究懇談会をアピールして会員増強を図る。

㉑スクリーニング分析研究懇談会（平成 29 年度新設）

【委員長：津越敬寿（産業技術総合研究所）】設立準備講演会（10 月 27 日、オルガノ（株）、東京）で開催した。運営委員会委員 7 名、次年度より会員を募集。

(6) 支部

2017 年度の支部活動を次のように行った。

【北海道支部】

①役員の選任

支部長	加藤 昌子				
副支部長	伊藤 慎二	渡慶次 学			
参 与	石本 裕	伊藤八十男	大澤 雅俊		
	大谷 真	片岡 正光	片山 則昭	久万 健志	
監 事	宇都 正幸	黒澤 隆夫			
庶務幹事	三浦 篤志	南 尚嗣			
会計幹事	坂入 正敏	谷 博文			
幹 事	青柳 直樹	石田 晃彦	上野 貢生		
大木 淳之	大津 直史	奥田 弥生	蛸崎 悌司		
川口 俊一	菅 正彦	喜多村 昇	工藤 英博		
蔵崎 正明	齋藤 健	齋藤 徹	堺井 亮介		
佐々木胤則	佐藤 久	鈴木 智宏	高橋 徹		
田中 俊逸	田原りり子	千葉 真弘	敦賀 昇		
富田 恵一	豊田 和弘	中田 耕	中谷 暢文		
永洞真一郎	西村 一彦	藤吉 亮子	古崎 睦		
松井 宏之	三原 義広	村井 毅	森田みゆき		
諸角 達也	山田 幸司	吉村 昭毅			

②研究発表会

- (1) 夏季研究発表会（共催）：7 月 22 日、旭川工業大学で開催、一般講演 90 件、特別講演 2 件（参加者 170 名）。また大雪地ビール館にて懇親会を行った（45 名）。
- (2) 化学教育研究協議会（共催）：11 月 11 日、北海道大学大学院地球環境科学研究院で開催、講演 1 件、分析化学若手教育研究者による話題提供、自由討論、懇親会を行った（参加者 73 名）。
- (3) 冬季研究発表会（共催）：1 月 16 日・17 日、北海道大学フロンティア応用科学研究棟で開催、研究発表 195 件、特別講演 1 件（参加者 394 名）。また懇親会を行った（参加者 63 名）。

③セミナー

- (1) 第 33 回分析化学緑陰セミナー：7 月 8 日・9 日、旅亭 雪の屋にて開催、講演 5 件、ポスター講演 19 件、懇親会を行った（参加者 56 名）。

(2) 2017年度公開セミナー：11月10日、北海道大学水産学部研究棟にて開催。講演2件、懇親会を行った(参加者29名)。

(3) 第53回氷雪セミナー：1月6-7日、定山溪万世閣ホテルミリオーネで開催、講演3件、懇親会を行った(参加者27名)。

④交流事業

若手の会交流会：九州支部開催の緑陰セミナーに若手研究者(1名)を派遣した。

⑤支部ニュースの発行

北海道支部ニュース第55号、第56号を発行した。

【東北支部】

①役員を選任

支 部 長	棟塚いそし			
副支部長	壹岐 伸彦	渡辺 忠一		
参 与	秋葉 健一	石井 一	宇野原信行	
大 関 邦夫	大 類 洋	尾形 健明	荻野 博	
長 哲郎	小田嶋次勝	後藤 順一	斎藤 紘一	
佐藤 允美	鈴木 信男	玉木 洋一	南原 利夫	
広川吉之助	星野 仁	山崎 慎一	四ツ柳隆夫	
監 事	猿渡 英之	西澤 精一		
庶務幹事	佐藤 雄介			
会計幹事	田副 博文			
幹 事	赤坂 和昭	安齊 順一	石川 太郎	
伊藤 徹二	伊野 浩介	井上 久美	井上 亮	
岩田 吉弘	遠藤 昌敏	大江 知行	大野 賢一	
大橋 弘範	小川 信明	押手 茂克	柏倉 俊介	
上條 利夫	菊地 洋一	北川 文彦	熊澤 徹	
佐藤 勝彦	佐藤 健二	珠玖 仁	志村 清仁	
鈴木 敦子	高貝 慶隆	鶴岡 博章	寺前 紀夫	
照井 教文	仲川 清隆	中川 公一	中村 重人	
中山 健一	西澤 松彦	野原 幸男	橋本 幹雄	
平野 愛弓	平山 和雄	福島美智子	福村 裕史	
藤村 務	星 友典	細野 長悦	末永 智一	
松永 英之	眞野 成康	村本 光二	盛田 伸一	
八木 芳夫	山田 正俊	我妻 和明	和久井喜人	
渡辺 壱	渡辺 健一			

②研究発表会

(1) 平成29年度化学系学協会東北大会(主催：日本化学会東北支部、共催：日本分析化学会東北支部)：9月16日・17日、岩手大学理工学部にて開催された。344件の講演があり、677名の参加があった。

③セミナー(主催)

(1) 分離機能とセンシング機能の化学セミナー2017：3月11日、東北大学理学研究科合同C棟多目的室にて開催した。招待講演2件が行われ、38名の参加があった。

(2) 平成29年度日本分析化学会東北支部若手交流会：7月14日・15日、秋保リゾート ホテルクレセンにて開催した。招待講演4件、学生依頼講演1件、ポスター講演19件が行われ、41名の参加があった。

(3) みちのく分析科学シンポジウム2017：7月22日、弘前大学創立50周年記念会館にて開催した。依頼講演2件、ポスター講演22件が行われ、45名の参加があった。

(4) バイオアナリシス2017：12月9日、東北大学理学研究科合同C棟多目的室にて開催した。招待講演2件が行われ、29名の参加があった。

④セミナー等共催事業

(1) 第37回 キャピラリー電気泳動シンポジウム(SCE2017)：11月28日～30日、東北大学大学院環境科学研究科(新棟、青葉山新キャンパス)にて開催した。特別講演1件、依頼講演12件、一般講演14件、ポスター講演22件が行われ、59名の参加があった。

(2) 資源処理・製錬技術の高度化を目指した勉強会：平

成30年1月15日、秋田大学地方創生センター2号館大セミナー室にて開催した。講演2件、体験学習コース2件が行われ、35名の参加があった。

【関東支部】

①役員を選任

支 部 長	中込 和哉			
次期支部長	望月 直樹			
副支部長	上原 伸夫	内山 一美	鈴木 康志	
藤浪 眞紀				
参 与	赤岩 英夫	梅澤 喜夫	岡田 哲男	
小熊 幸一	大橋弘三郎	楠 文代	金澤 秀子	
合志 陽一	澤田 清	洪川 雅美	菅原 正雄	
杉谷 嘉則	高田 芳矩	高村喜代子	田中 龍彦	
角田 欣一	中村 洋	丹羽 修	二瓶 好正	
平井 昭司	藤原 鎮男	保母 敏行	前田 瑞夫	
宮村 一夫	矢野 良子	山崎 素直	山根 兵	
綿拔 邦彦				
監 事	坂本 美徳	安田 純子		
常任幹事	会田 秀樹	相本 道宏	石川 隆一	
岩崎 雄介	上野 祐子	梅村 知也	大橋 朗	
奥村 寿子	加藤 大	川田 哲	川原 正博	
国村 伸祐	桑原 哲夫	齊藤 伸吾	佐藤 敬一	
敷野 修	鈴木 保任	谷合 敬寿	津越 敬寿	
豊田 太郎	中西 淳	並木 健二	野村 文子	
袴田 秀樹	林 英男	東 達也	保倉 明子	
本田 俊哉	由井 宏治			
支部幹事	有井 忠	伊藤 里恵	植田 郁生	
釜谷 美則	小玉 修嗣	坂元 秀之	佐々木直樹	
東海林 敦	鈴木 憲子	高橋あかね	角田 誠	
半田友衣子	蛭田 勇樹	増田 潤一	村田 英明	
山崎 伸彦	吉田 達成			

②研究発表会

第31回新潟地区部会研究発表会：9月22日(金)、新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」において開催、特別講演2件、一般講演5件、ポスターセッション13件。新潟地区部会若手授賞式・情報交換会を行った(参加者70名)。

③講習会

(1) 第58回機器分析講習会：第1コース6月22日・23日、アジレントテクノロジー(受講者32名)、第2コース7月26日～28日慶應義塾大学(受講者38名)、第3コース11月21日・22日島津製作所(受講者8名)で開催した。

(2) 第30・31回分析化学基礎実習講座：8月24日・25日東京理科大学(受講者37名)、2月8日・9日(受講者36名)パーキンエルマージャパンで各々開催した。

④講演会

(1) 第14回茨城地区分析技術交流会：12月1日、いばらき量子ビーム研究センターにおいて開催、特別講演2件、五十嵐淑郎先生退官記念講演2件、ポスターセッション及び情報交換会を行った(参加者119名)。

⑤セミナー

(1) 29年度日本分析化学会関東支部若手交流会：7月14日・15日、「ホテルニュー塩原」において開催(参加者64名)。

(2) 新世紀賞・(新人賞)講演会・新年交流会：1月9日、秋葉原ダイビル18階日立製作所において開催。新世紀賞受賞者は、東海林 敦氏、小谷 明氏。新世紀賞(新人賞)受賞者は、上村真生氏。

⑥各県分析化学交流会

(1) 第13回千葉県分析化学交流会：12月22日、東京理科大学薬学部において開催。

⑦支部ニュースの発行

関東支部ニュース第28号を発行した。

【中部支部】

①役員の選任

支部長	片野 肇				
次期支部長	馬場 嘉信				
副支部長	石田 康行	長谷川 浩			
顧問	板谷 芳京	上田 一正	上田 穰一		
	酒井 忠雄	佐々木与志実	鈴木 正巳	田口 茂	
	柘植 新	寺田喜久雄	永長 幸雄	中村 俊夫	
	野村 俊明	原 稔	舟橋 重信	本浄 高治	
	三輪 智夫	村田 旭	山田 真吉	山寺 秀雄	
参 与	宇野 文二	太田 清久	北川 邦行		
	小泉 貞之	竹内 豊英	早川 和一	樋上 照男	
	平出 正孝	湯地 昭夫	井村 久則		
監 事	手嶋 紀夫	小谷 明			
庶務幹事	平 修	加地 範匡			
会計幹事	安井 孝宏	湯川 博			
常任幹事	江坂 幸宏	小川 数馬	甲斐 穂高		
	倉光 英樹	齊戸 美弘	高橋 透	巽 広輔	
	柘植 明	藤本 忠藏	松宮 弘明		
幹 事	伊藤 雅章	今田 芳憲	太田 一徳		
	大嶋 俊一	大橋 芳明	奥山 修司	香川 信之	
	勝又 英之	加藤 仁志	金子 聡	菅野 憲	
	儀賀 義勝	北出 和久	栗原 誠	健名 智子	
	後反 克典	齊藤 彰良	篠原 直行	妹尾 健吾	
	高木 秀夫	高田 主岳	高橋 史樹	田中 智一	
	袋布 昌幹	鳥羽 陽	丹羽 敏之	丹羽 啓誌	
	東 由記雄	松村 繁樹	南谷 臣昭	村上 博哉	
	リムリーワ	山形 茂	四津 佳伸		

②研究発表会

(1) 第48回中部化学関係学協会支部連合秋季大会(特別討論会):11月11日・12日,岐阜大学,招待講演1件,依頼講演1件,一般講演22件を行った(参加者90名)。

③講演会

(1) 北陸地区講演会:6月30日,金沢大学角間キャンパスで開催,講演2件を行った(参加者63名)。

(2) 信州地区講演会:9月29日,信州大学理学部で開催,講演2件を行った(参加者95名)。

(3) 愛知地区講演会:9月20日,名古屋大学東山キャンパスで講習会と併せて開催,講演3件を行った(参加者52名)。

④講習会

(1) 第27回基礎及び最新の分析化学講習会:9月19日・20日,名古屋大学東山キャンパスで開催,講義7件を行った(参加者55名)。

⑤セミナー

(1) 第36回分析化学中部夏期セミナー:8月29日・30日,高山市図書館で開催,受賞講演1件,招待講演1件,ポスター講演34件を行った(参加者74名)。

(2) 「分析中部・ゆめ21」若手交流会・第17回高山フォーラム:11月17日・18日,高山市図書館お宿山久で開催,口頭発表7件,ポスター発表36件を行った(参加者75名)。

【近畿支部】

①役員の選任

支部長	辻 幸一				
副支部長	長谷川 健	久保公二			
庶務幹事	床波 志保	中原 佳夫			
会計幹事	鈴江 崇彦	堀田 弘樹			
参 与	荒川 隆一	池田 重良	池田 篤治		
	池田 昌彦	市村 彰男	小川禎一郎	垣内 隆	
	木原 壯林	木村 恵一	木村 優	紀本 岳志	
	日下 諺	小島 次雄	佐伯 正夫	佐藤 昌憲	
	澁谷 康彦	田中 久	田中 稔	谷口 一雄	
	正彦 正彦	辻 治雄	寺部 茂	中川 照眞	
	中原 武利	藤田 芳一	藤原 英明	穂積啓一郎	

増田 嘉孝	松井 正和	松下 隆之	八尾 俊男		
脇阪 達司	渡辺 巖	渡會 仁			
常任幹事	青山 佳弘	石原 進介	岩月 聡史		
宇田 亮子	岡本 行広	川崎 英也	倉内 奈美		
高山 透	塚原 聡	坪井 泰之	永井 秀典		
西 直哉	三宅 司郎	村松 康司	森内 隆代		
矢嶋 撰子					

幹 事	浅川 大地	飯田 琢也	石濱 泰		
岩本 仁志	上田 啓太	上原 章寛	梅谷 重夫		
遠藤 達郎	大石 晴樹	大内 幹雄	大塚 利行		
大城 敬人	大塚 浩二	岡田 邦弘	尾崎 幸洋		
尾関 徹	小堤 和彦	小山 宗孝	糟野 潤		
門 晋平	加納 健司	柄谷 肇	河合 潤		
川井 隆之	河田 聡	河野 宏彰	川元 達彦		
北隅 優希	北出 達也	木村 敦臣	久保 拓也		
久保田直哉	小池 亮	小林 典裕	久保 英文		
作花 哲夫	佐々木健次	佐々木隆之	椎木 弘		
下山 昌彦	白井 理	末吉 健志	杉原 崇康		
杉山 雅人	鈴木 茂生	鈴木 哲仁	諏訪 雅頼		
宗林 由樹	高木 達也	高橋 弘樹	高原 晃里		
瀧川 宏司	竹田さほり	田中 章夫	田中 洋充		
田中 陽	谷口 理	民谷 栄一	千葉 光一		
茶山 健二	塚越 一彦	都築 英明	角井 伸次		
壺井 基裕	津村ゆかり	土井 光暢	豊田 岐聡		
内藤 豊裕	長岡 勉	中口 譲	中澤 隆		
中島 陽一	中田 靖	中西 和樹	中林 安雄		
中山 茂吉	西塾 誠	野田 達夫	萩中 淳		
張野 宏也	東 昇	藤居 秀明	藤居 義和		
藤嶽 暢英	藤原 学	藤森 啓一	細矢 憲		
本間 秀和	前田 耕治	牧 秀志	松尾 修司		
松本 明弘	丸尾 雅啓	三木功次郎	三田村邦子		
三戸彩絵子	宮道 隆	向井 浩	村上 正裕		
森澤 勇介	森田 成昭	安川 智之	山垣 亮		
山口 敬子	山田 悦	山本 克彦	山田 隆		
山本 茂樹	山本 雅博	横井 邦彦	吉田 朋子		
吉田 裕美	米倉 忠史	脇田 慎一			

②講演会

(1) 第12回近畿分析技術研究奨励賞表彰式・受賞講演会:3月13日,大阪科学技術センターで開催,表彰・受賞講演2件を行った。

(2) 第1回支部講演会:4月14日,大阪科学技術センターで開催,講演2件を行った。

(3) 第2回支部講演会:7月21日,堀場製作所びわこ工場で開催,講演2件を行った。

(4) 第3回支部講演会:12月8日,大阪科学技術センターで開催,講演2件を行った。

③講習会

(1) ぶんせき講習会・基礎編その1:5月12日,大阪市立大学文化交流センターで開催,講演5件と演習を行った(受講者92名)。

(2) ぶんせき講習会・基礎編その2:6月23日,堀場製作所で開催,講演4件と実習を行った(受講者19名)。

(3) ぶんせき講習会・実践編(第64回機器による分析化学講習会):7月14日,京都電子工業㈱で開催,講義4件と実習を行った(受講者25名)。

(4) ぶんせき講習会・発展編:11月17日,関西大学にて開催,講義2件と実習を行った(受講者8名)。

④セミナー

(1) 第11回平成夏季セミナー(ぶんせき秘帖):8月7日・8日,淡路島東浦サンパークで開催,講演3件,ブラッシュアッププレゼンテーション,ポスターセッション(42件)を行った(参加者62名)。

(2) 第1回提案公募型セミナー:5月26日,龍谷大学深草学舎で開催,講演4件を行った(参加者32名)。

(3) 第2回提案公募型セミナー：10月20日、大阪市立大学杉本キャンパスで開催、講演2件を行った。(参加者29名)。

⑤支部ニュースの発行

支部ニュース(ぶんせきんニュース)を3回発行した(全96ページ)。

【中国四国支部】

①役員の内任

支部長	金田 隆				
次期支部長	早川慎二郎				
副支部長	吉屋 晴夫				
事務局長	早川慎二郎				
支部参与	池田 早苗	今井 嘉彦	岩知道 正		
大島 光子	奥村 稔	小倉興太郎	木ト 光夫		
熊丸 尚宏	下村 滋	善木 道雄	平頭 昭二		
竹味 弘勝	中野 恵文	林 康久	田頭 静子		
廣川 健	藤原 照文	北條 正司	真鍋 敏		
宮田 晴夫	本仲 純子	本水 昌二	森田 秀芳		
山崎 恒博					
支部監事	伊藤 一明	名郷 洋信			
庶務幹事	安達 健太	武安 伸幸	山下 浩		
会計幹事	竹田 一彦	西本 潤			
常任幹事	朝日 剛	阿部 一之	一色 健司		
石坂 昌司	泉 雅典	今井 昭二	受田 浩之		
岡田 圭司	紙谷 浩之	北出 哲朗	北山 宏三		
児玉 竜二	座古 保	鈴木 達也	高柳 俊夫		
田中 秀治	谷本 典之	中山 雅晴	西 博行		
原 哲也	引野 健治	藤原 薫	村上 良子		
森本 稔	藪谷 智規	山岡 和則	横山 崇		
若林 茂夫	和田 修治				
支部幹事	浅野 比	新名 龍彦	井上 裕文		
片岡 洋行	勝 孝	川村 邦男	島崎 洋次		
菅原 庄吾	竹内 政樹	竹永 史典	谷村 俊史		
永阪 文惣	中田 健一	難波 亨	樋口 浩一		
廣澤 礼文	藤原 勇	淵脇 雄介	寶來佐和子		
水口 仁志	森 勝伸	門木 秀幸	山本 剛		
山本 孝	吉岡 徹	吉田 祐一	吉本 誠		

②研究発表会

(1) 第54回フローインジェクション分析研究懇談会(共催)：2017年11月30日・12月1日に加計学園50周年記念館で開催。30日にワークショップを実施、1件の特別講義、2件の講義、5件の実習を行った(参加者48名)、1日に講演会を実施、4件の招待講演、1件の依頼講演、11件の口頭発表、19件のポスター発表を行った(参加者95名)。

(2) 第53回X線分析討論会(協賛)：2017年10月26日・27日 徳島大学常三島キャンパスで開催、特別講演3件、依頼講演1件、口頭発表28件、ポスター発表65件を行った(参加者165名)。

(3) イオンクロマト研究懇談会(後援)：2017年12月7日・8日に広島ガーデンパレスで開催、依頼講演2件、受賞講演1件、口頭発表11件、ポスター発表13件を行った(参加者53名)。

③講演会

(1) 中国四国支部分析化学講演会(岡山地区)：2017年3月11日(ピュアリティまきび)で開催。藤原照文氏(広島大名名誉教授)、北條正司氏(高知大学複合領域科学部門)の講演を行った(参加者31名)。

(2) 岡山地区講演会(岡山地区分析技術懇談会と共催)：2017年3月13日 岡山大学理学部で開催、1件の講演と4件の研究紹介を行った(参加者30名)。

(3) 広島地区講演会(広島地区分析技術研究会と共催)：2017年3月31日 広島大学学士会館で開催、依頼講演3件を行った(参加者38名)。

(4) 周南地区講演会(周南地区コンビナート分析研究会

と共催)：2017年7月13日 東ソークラブで開催、講演5件を行った(参加者53名)。2017年12月4日徳曹会館講堂で開催、講演3件を行った(参加者50名)。

(5) 宇部・山陽小野田地区講演会(宇部地区分析技術研究会と共催)：2018年1月17日 山陽小野田市立山口東京理科大学2号館で開催、依頼講演3件を行った(参加者65名)。

(6) 愛媛地区講演会(愛媛地区分析技術懇談会と共催)：(2017年度は開催せず)

(7) 徳島地区講演会(徳島化学工学懇話会と共催)：2018年1月23日 徳島大学薬学部第1講義室で開催、依頼講演1件と研究発表2件を行った(参加者56名)。

(8) 鳥取地区講演会(鳥取総合分析研究懇談会と共催)：2017年12月2日 鳥取大学VBL棟セミナー室で開催、依頼講演2件を行った(参加者21名)。

(9) 島根地区講演会(島根環境分析化学・陸水化学懇話会と共催)：(2017年度は開催せず)

(10) 高知地区講演会(高知地区分析技術懇談会と共催)：2017年12月16日 高知大学(朝倉キャンパス)で開催、依頼講演2件を行った(参加者20名)。

(11) 外国人学者講演会：2017年3月22日、岡山大学コラボ棟201講習室)で開催。Yong-Ill Lee (Changwon National University) 教授の講演を行った(参加者20名)。

④講習会

第54回分析化学講習会(愛媛地区)：2017年8月10日・11日、愛媛大学城北キャンパスにて開催。「除染技術に果たす分析化学の役割」の主題で、特別講演2件、講義8件、ランチョンセミナー1件、実習10種類および情報交換会を行った(参加登録者22名)。

⑥セミナー

第23回中国四国支部分析化学若手セミナー：2017年7月1日・2日、秋吉台国際芸術村で開催、依頼講演2件とポスター発表を行った(参加者58名)。

【九州支部】

①役員の内任

支部長	戸田 敬				
次期支部長	高椋 利幸				
副支部長	井倉 則之	内原 博			
参与	飯盛喜代春	石黒 慎一	岩崎 正武		
大森 保	鎌田 薩男	喜納 兼勇	合屋周次郎		
小林 宏	財津 潔	城 昭典	高館 明		
谷口 功	竹田津富次	田端 正明	出口 俊雄		
中村 博	増田 義人	松本 清			
監 査	竹中 繁織	満尾 良弘			
庶務幹事	大平 慎一				
会計幹事	田中 明				
常任幹事	石川 洋哉	井原 敏博	宇都宮 聡		
大島 達也	川上 健次	神崎 亮	宋 伸明		
中山 守雄	浜瀬 健司	原田 明	原田 雅章		
森 建	吉田 秀幸				
幹 事	新垣 雄光	安藤 功	池上 天		
石岡 寿雄	石田 雄士	井上 高教	今坂藤太郎		
今任 稔彦	梅木 辰也	大浦 博樹	大木 章		
王子田彰夫	大渡 啓介	大庭 義史	岡上 吉広		
尾本 憲昭	恩田 健	片山 佳樹	加藤 祐子		
梶島 力	梶島 正美	上畑桂太郎	河津 博文		
川畑 明	岸川 直哉	北村 裕介	木下 将和		
木下 英治	藏脇 淳一	栗崎 敏	栗原 龍		
黒田 直敬	呉 行正	児玉谷 仁	財津 慎一		
笹木 圭子	佐藤 正雄	佐藤 博	佐藤しのぶ		
澤津橋徹哉	塩路 幸生	柴田 孝之	下田 満哉		
白土 英樹	末田 慎二	高橋 浩司	竹原 公		
田中 充	天日 美薫	富永 昌人	富安 卓滋		

中島憲一郎	中嶋直敏	中島常憲	中園学
中武貞文	中野幸二	新留康郎	西田正志
二村和孝	能田均	能登征美	野間誠司
馬場由成	巴山忠	原口浩一	肥後盛秀
前田明広	増田寿伸	又吉直子	松井利郎
松田直樹	松野康二	松森信明	光井康浩
満塩勝	南原直人	村田正治	安田みどり
柳雅之	藪下彰啓	山口敏男	山口英敬
山口政俊	山田淳	横山拓史	吉田亨次
吉留俊史	吉村和久	和田光弘	

②研究発表会

- (1) 第54回化学関連支部合同九州大会（共催）：7月1日，北九州国際会議場で開催。優秀ポスター発表4件を「九州分析化学ポスター賞」として表彰。
- (2) 第10回日韓ジョイントシンポジウム（10th JKBT）（共催）：11月19日～21日，北九州国際会議場で開催
- (3) 日本中性子科学会第17回年会（共催）：12月2日・3日，福岡大学七隈キャンパスで開催。

③講演会

- (1) 第30回九州分析化学若手の会・春の講演会（主催）：5月13日，北九州国際会議場で開催。
- (2) 機器分析ワークショップ（主催）：5月24日（長崎大学薬学部），10月27日（福岡大学中央図書館），1月19日（鹿児島大学産学官連携センター）で開催。
- (3) 新技術インハウスセミナー（主催）：5月16日・17日（熊本大学薬学部創薬研究センター），12月17日（JNC(株)水俣研究所）で開催。
- (4) 九州支部講演会・見学会（主催）：11月17日，熊本大学百周年記念館・(株)堀場エステック阿蘇工場で開催。

④講習会

- (1) 第58回分析化学講習会（主催）：8月8日～10日，福岡市産学連携交流センター，九州大学伊都キャンパス，福岡大学七隈キャンパスで開催。

⑤セミナー

- (1) 第35回九州分析化学若手の会・夏季セミナー（主催）：7月28日・29日，ホテルパーレンス小野屋で開催。優秀ポスター発表7件を「九州分析化学若手賞」として表彰。

⑥支部ニュース

支部ニュース第36号（8月）及び第37号（3月）を発行。

平成 29 年 度 会 計 報 告

貸 借 対 照 表

(平成 30 年 2 月 28 日現在)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	163,201,312	156,378,513	6,822,799
売掛金	1,908,144	2,240,460	△ 332,316
未収金	4,575,812	3,936,055	639,757
棚卸資産	25,632,233	26,867,529	△ 1,235,296
貯蔵品	151,155	113,308	37,847
一年以内回収予定長期貸付金	199,920	199,920	0
前払金	2,153,935	857,674	1,296,261
仮払金	516,308	603,362	△ 87,054
流動資産合計	198,338,819	191,196,821	7,141,998
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	2,267,420	2,267,398	22
標準物質開発基金	34,782,099	34,776,353	5,746
分析技術教育基金	12,985,933	12,983,105	2,828
国際交流事業基金	19,143,606	20,643,410	△ 1,499,804
分析化学研究奨励基金	8,377,585	8,376,749	836
預り保証金引当預金	11,000,000	11,000,000	0
支部研究懇談会特定預金	21,296,407	22,160,792	△ 864,385
特定資産合計	109,853,050	112,207,807	△ 2,354,757
(3) その他固定資産			
建物	10,756,023	11,262,852	△ 506,829
器具備品	15,130	22,690	△ 7,560
土地	30,607,799	30,607,799	0
商標権	0	23,606	△ 23,606
電話加入権	28,000	28,000	0
敷金	100,000	100,000	0
長期貸付金	1,927,800	2,127,720	△ 199,920
その他固定資産合計	43,434,752	44,172,667	△ 737,915
固定資産合計	163,287,802	166,380,474	△ 3,092,672
資産合計	361,626,621	357,577,295	4,049,326

貸 借 対 照 表

(平成 30 年 2 月 28 日現在)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	9,547,598	8,047,641	1,499,957
前受会費	38,103,800	40,038,800	△ 1,935,000
前受購読料	3,656,800	4,107,250	△ 450,450
前受金	2,375,000	1,190,000	1,185,000
預り金	1,288,810	856,313	432,497
仮受金	69,865	79,585	△ 9,720
賞与引当金	2,297,493	2,196,186	101,307
未払消費税等	2,163,300	1,684,500	478,800
流動負債合計	59,502,666	58,200,275	1,302,391
2. 固定負債			
退職給付引当金	40,537,631	37,697,967	2,839,664
預り保証金	11,000,000	11,000,000	0
固定負債合計	51,537,631	48,697,967	2,839,664
負債合計	111,040,297	106,898,242	4,142,055
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
民間補助金	0	0	0
指定正味財産合計	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
2. 一般正味財産	250,586,324	250,679,053	△ 92,729
(うち基本財産への充当額)	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
正味財産合計	250,586,324	250,679,053	△ 92,729
負債及び正味財産合計	361,626,621	357,577,295	4,049,326

正味財産増減計算書

(平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	700	22,035	△ 21,335
基本財産運用益	700	22,035	△ 21,335
特定資産運用益	11,523	15,785	△ 4,262
退職給付引当資産運用益	22	22	0
標準物質開発基金運用益	5,746	5,859	△ 113
分析技術教育基金運用益	2,828	2,835	△ 7
国際交流事業基金運用益	196	204	△ 8
分析化学研究奨励基金運用益	836	2,095	△ 1,259
預り保証金引当預金運用益	1,100	2,757	△ 1,657
支部研究懇談会特定預金運用益	795	2,013	△ 1,218
受取入会金	211,000	186,000	25,000
受取会費	86,514,436	87,896,647	△ 1,382,211
正会員会費	32,588,500	33,457,500	△ 869,000
学生会員会費	2,238,750	2,386,500	△ 147,750
維持会員会費	16,518,900	17,038,500	△ 519,600
特別会員会費	17,067,300	16,369,500	697,800
公益会員会費	10,648,200	11,294,900	△ 646,700
支部研究受会費	7,452,786	7,349,747	103,039
賛助会員受会費	0	0	0
事業収益	130,756,326	130,057,214	699,112
購読料収入	6,336,469	7,028,664	△ 692,195
年会収入	12,971,299	9,834,260	3,137,039
討論会収入	14,877,702	13,083,358	1,794,344
講演会収入	8,252,256	4,951,236	3,301,020
講習会収入	21,820,441	23,135,186	△ 1,314,745
研究懇談会収入	428,427	878,166	△ 449,739
技能試験収入	13,145,500	12,096,001	1,049,499
分析士事業収入	4,363,083	3,895,998	467,085
SS収入	0	0	0
印税収入	1,051,721	481,909	569,812
教育ビデオ・DVD 頒布収入	1,498,500	2,274,500	△ 776,000
標準物質頒布収入	15,010,556	18,554,645	△ 3,544,089
広告料収入	22,968,539	26,134,329	△ 3,165,790
別刷頒布収入	7,735,735	6,348,244	1,387,491
複写権使用料収入	296,098	184,791	111,307
技能試験受託収入	0	0	0
JIS改正受託収入	0	1,175,927	△ 1,175,927
受取補助金等	21,562,328	20,947,600	614,728
受取国庫補助金	18,500,000	17,600,000	900,000
受取民間補助金	2,913,341	2,780,000	133,341
受取自治体補助金	148,987	567,600	△ 418,613
受取寄附金	560,000	210,000	350,000
受取寄附金	560,000	210,000	350,000
雑収益	335,047	621,098	△ 286,051
受取利息	56,901	60,055	△ 3,154
雑収益	278,146	561,043	△ 282,897
経常収益計	239,951,360	239,956,379	△ 5,019

正味財産増減計算書

(平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
(2) 経常費用			
事業費	191,120,386	185,238,788	5,881,598
給料手当	22,898,207	22,015,927	882,280
臨時雇賃金	19,021,042	18,828,220	192,822
退職給付費用	1,777,630	1,571,405	206,225
法定福利費	3,909,184	6,128,234	△ 2,219,050
福利厚生費	0	0	0
会議費	15,546,352	20,925,787	△ 5,379,435
旅費交通費	16,971,091	17,434,554	△ 463,463
通信運搬費	3,759,982	3,512,635	247,347
減価償却費	507,131	630,952	△ 123,821
修繕費	1,045,440	758,792	286,648
消耗品費	3,675,264	4,620,278	△ 945,014
印刷製本費	32,376,191	30,609,985	1,766,206
光熱水料費	284,495	189,437	95,058
賃借料	6,001,028	100,000	5,901,028
支払リース料	431,574	862,998	△ 431,424
保険料	51,830	71,149	△ 19,319
諸謝金	11,311,295	8,605,613	2,705,682
租税公課	5,100,384	5,407,678	△ 307,294
支払負担金	622,382	657,326	△ 34,944
支払助成金	801,300	599,434	201,866
委託費	41,926,635	38,457,622	3,469,013
表彰費	2,496,292	2,388,939	107,353
雑費	605,657	861,823	△ 256,166
管理費	48,923,703	48,040,105	883,598
給料手当	14,814,248	15,340,069	△ 525,821
臨時雇賃金	8,810,996	10,269,900	△ 1,458,904
退職給付費用	1,062,034	392,852	669,182
法定福利費	3,603,157	1,532,059	2,071,098
福利厚生費	56,070	58,724	△ 2,654
会議費	145,988	267,475	△ 121,487
旅費交通費	2,245,985	3,177,992	△ 932,007
通信運搬費	2,297,484	1,456,881	840,603
減価償却費	30,864	35,497	△ 4,633
修繕費	164,902	545,149	△ 380,247
消耗品費	1,701,658	1,019,426	682,232
印刷製本費	320,350	298,600	21,750
光熱水料費	54,494	122,964	△ 68,470
賃借料	307,006	209,293	97,713
支払リース料	2,934,480	2,881,780	52,700
保険料	0	0	0
諸謝金	0	0	0
租税公課	10,300	21,900	△ 11,600
支払負担金	1,685,010	1,659,497	25,513
支払助成金	0	0	0
委託費	8,588,302	8,652,615	△ 64,313
表彰費	0	0	0
雑費	90,375	97,432	△ 7,057
経常費用計	240,044,089	233,278,893	6,765,196
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 92,729	6,677,486	△ 6,770,215
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 92,729	6,677,486	△ 6,770,215

正味財産増減計算書

(平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 92,729	6,677,486	△ 6,770,215
一般正味財産期首残高	250,679,053	244,001,567	6,677,486
一般正味財産期末残高	250,586,324	250,679,053	△ 92,729
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	0	0	0
受取民間補助金	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	250,586,324	250,679,053	△ 92,729

正味財産増減計算書内訳表

(平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日)

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	0	700	0	700
基本財産運用益	0	700	0	700
特定資産運用益	1,631	9,892	0	11,523
退職給付引当資産運用益	0	22	0	22
標準物質開発基金運用益	0	5,746	0	5,746
分析技術教育基金運用益	0	2,828	0	2,828
国際交流事業基金運用益	0	196	0	196
分析化学研究奨励基金運用益	836	0	0	836
預り保証金引当預金運用益	0	1,100	0	1,100
支部研究懇談会特定預金運用益	795	0	0	795
受取入会金	0	211,000	0	211,000
受取会費	62,795,941	23,718,495	0	86,514,436
正会員会費	22,811,950	9,776,550	0	32,588,500
学生会員会費	1,567,125	671,625	0	2,238,750
維持会員会費	11,563,230	4,955,670	0	16,518,900
特別会員会費	11,947,110	5,120,190	0	17,067,300
公益会員会費	7,453,740	3,194,460	0	10,648,200
支部研究懇談会会費	7,452,786	0	0	7,452,786
賛助会員会費	0	0	0	0
事業収益	104,605,066	26,151,260	0	130,756,326
購読料収入	5,069,176	1,267,293	0	6,336,469
年会収入	10,377,040	2,594,259	0	12,971,299
討論会収入	11,902,162	2,975,540	0	14,877,702
講演会収入	6,601,805	1,650,451	0	8,252,256
講習会収入	17,456,353	4,364,088	0	21,820,441
研究懇談会収入	342,742	85,685	0	428,427
技能試験収入	10,516,400	2,629,100	0	13,145,500
分析士事業収入	3,490,467	872,616	0	4,363,083
SS収入	0	0	0	0
印税収入	841,377	210,344	0	1,051,721
教育ビデオ・DVD 頒布収入	1,198,800	299,700	0	1,498,500
標準物質頒布収入	12,008,445	3,002,111	0	15,010,556
広告料収入	18,374,832	4,593,707	0	22,968,539
別刷頒布収入	6,188,588	1,547,147	0	7,735,735
複写権使用料収入	236,879	59,219	0	296,098
技能試験受託収入	0	0	0	0
JIS改正受託収入	0	0	0	0
受取補助金等	21,562,328	0	0	21,562,328
受取国庫補助金	18,500,000	0	0	18,500,000
受取民間補助金	2,913,341	0	0	2,913,341
受取自治体補助金	148,987	0	0	148,987
受取寄附金	560,000	0	0	560,000
受取寄附金	560,000	0	0	560,000
雑収益	279,845	55,202	0	335,047
受取利息	1,699	55,202	0	56,901
雑収益	278,146	0	0	278,146
経常収益計	189,804,811	50,146,549	0	239,951,360

正味財産増減計算書内訳表

(平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日)

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合 計
(2) 経常費用				
事業費	191,120,386	0	0	191,120,386
給料手当	22,898,207	0	0	22,898,207
臨時雇賃金	19,021,042	0	0	19,021,042
退職給付費用	1,777,630	0	0	1,777,630
法定福利費	3,909,184	0	0	3,909,184
福利厚生費	0	0	0	0
会議費	15,546,352	0	0	15,546,352
旅費交通費	16,971,091	0	0	16,971,091
通信運搬費	3,759,982	0	0	3,759,982
減価償却費	507,131	0	0	507,131
修繕費	1,045,440	0	0	1,045,440
消耗品費	3,675,264	0	0	3,675,264
印刷製本費	32,376,191	0	0	32,376,191
光熱水料費	284,495	0	0	284,495
賃借料	6,001,028	0	0	6,001,028
支払リース料	431,574	0	0	431,574
保険料	51,830	0	0	51,830
諸謝金	11,311,295	0	0	11,311,295
租税公課	5,100,384	0	0	5,100,384
支払負担金	622,382	0	0	622,382
支払助成金	801,300	0	0	801,300
委託費	41,926,635	0	0	41,926,635
表彰費	2,496,292	0	0	2,496,292
雑費	605,657	0	0	605,657
管理費	0	48,923,703	0	48,923,703
給料手当	0	14,814,248	0	14,814,248
臨時雇賃金	0	8,810,996	0	8,810,996
退職給付費用	0	1,062,034	0	1,062,034
法定福利費	0	3,603,157	0	3,603,157
福利厚生費	0	56,070	0	56,070
会議費	0	145,988	0	145,988
旅費交通費	0	2,245,985	0	2,245,985
通信運搬費	0	2,297,484	0	2,297,484
減価償却費	0	30,864	0	30,864
修繕費	0	164,902	0	164,902
消耗品費	0	1,701,658	0	1,701,658
印刷製本費	0	320,350	0	320,350
光熱水料費	0	54,494	0	54,494
賃借料	0	307,006	0	307,006
支払リース料	0	2,934,480	0	2,934,480
保険料	0	0	0	0
諸謝金	0	0	0	0
租税公課	0	10,300	0	10,300
支払負担金	0	1,685,010	0	1,685,010
支払助成金	0	0	0	0
委託費	0	8,588,302	0	8,588,302
表彰費	0	0	0	0
雑費	0	90,375	0	90,375
経常費用計	191,120,386	48,923,703	0	240,044,089
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,315,575	1,222,846	0	△ 92,729
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,315,575	1,222,846	0	△ 92,729

正味財産増減計算書内訳表

(平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日)

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合 計
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
固定資産売却益	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,315,575	1,222,846	0	△ 92,729
一般正味財産期首残高	186,440,512	64,238,541	0	250,679,053
一般正味財産期末残高	185,124,937	65,461,387	0	250,586,324
Ⅱ 指定正味財産増減の部				0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	185,124,937	65,461,387	0	250,586,324

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(1) 満期保有目的有価証券の評価基準及び評価方法

償却原価法を採用している。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

先入先出法による原価法を採用している。

(3) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

建物…定額法を採用している。（ただし、平成10年3月以前に取得した建物については定率法を採用している。）

器具備品…定率法を採用している。

無形固定資産

ソフトウェア・商標権…定額法を採用している。

(4) 引当金の計上基準

賞与引当金…職員に対する賞与の支給に備えるため、

支給見込額のうち当期の負担に帰属する金額を計上している。

退職給付引当金…職員の退職給与の支給に備えるため、退職金支給規程に基づき

期末自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基 本 財 産				
定期預金	10,000,000	0	0	10,000,000
小 計	10,000,000	0	0	10,000,000
特 定 資 産				
退職給付引当資産	2,267,398	22	0	2,267,420
標準物質開発基金	34,776,353	5,746	0	34,782,099
分析技術教育基金	12,983,105	2,828	0	12,985,933
国際交流事業基金	20,643,410	196	1,500,000	19,143,606
分析化学研究奨励基金	8,376,749	836	0	8,377,585
預り保証金引当預金	11,000,000	0	0	11,000,000
支部研究懇談会特定預金	22,160,792	77,091	941,476	21,296,407
小 計	112,207,807	86,719	2,441,476	109,853,050
合 計	122,207,807	86,719	2,441,476	119,853,050

財務諸表に対する注記

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	-	(10,000,000)	-
小 計	10,000,000	-	(10,000,000)	-
特定資産				
退職給付引当資産	2,267,420	-	-	(2,267,420)
標準物質開発基金	34,782,099	-	(34,782,099)	-
分析技術教育基金	12,985,933	-	(12,985,933)	-
国際交流事業基金	19,143,606	-	(19,143,606)	-
分析化学研究奨励基金	8,377,585	-	(8,377,585)	-
預り保証金引当預金	11,000,000	-	-	(11,000,000)
支部研究懇談会特定預金	21,296,407	-	(21,296,407)	-
小 計	109,853,050	-	(96,585,630)	(13,267,420)
合 計	119,853,050	-	(106,585,630)	(13,267,420)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	57,522,500	46,766,477	10,756,023
器具備品	5,779,913	5,764,783	15,130
合 計	63,302,413	52,531,260	10,771,153

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当事項はありません。

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
国庫補助金	日本学術振興会	0	18,500,000	18,500,000	0
自治体補助金	京都市	0	78,987	78,987	0
	高山市	0	70,000	70,000	0
民間補助金	化学物質評価研究機構等	0	2,913,341	2,913,341	0
合 計		0	21,562,328	21,562,328	0

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

該当事項はありません。

付 属 明 細 書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記 3「基本財産及び特定資産の増減額及びその残高」に記載をしているため、内容の記載を省略する。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	2,196,186	2,297,493	2,196,186	0	2,297,493
退職給付引当金	37,697,967	2,839,664	0	0	40,537,631

財産目録

平成30年 2月28日現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として(本部現金484,658円)	1,012,685
預金	預金合計		162,188,627
	普通預金		63,122,775
	三井住友銀行五反田支店	本部	15,841,684
	三井住友銀行五反田支店	本部講習会口	8,988,455
	三井住友銀行新宿通支店	本部	2,285,825
	三井住友銀行五反田支店	本部分析士口	825,992
	三井住友銀行五反田支店	本部科研費口	0
	みずほ銀行五反田支店	本部	35,132,979
	三井住友銀行中もず支店	若手交流会	47,840
	支部/普通預金		33,561,552
	北洋銀行本店営業部	北海道支部	3,126,213
	青森銀行弘前支店	東北支部	1,962,336
	七十七銀行大学病院前支店	東北支部	1
	みずほ銀行五反田支店	関東支部	15,779,784
	みずほ銀行名古屋支店	中部支部	3,132,591
	りそな銀行御堂筋支店	近畿支部	5,419,653
	りそな銀行御堂筋支店	近畿支部近畿分析技術研究懇話会	1,627,381
	広島銀行西条支店	中国四国支部	2,513,593
	研究懇談会/普通預金		27,324,322
	みずほ銀行南大沢支店	環境分析研究懇談会	526,772
	武蔵野銀行みずほ台支店	有機微量分析研究懇談会	4,274,395
	りそな銀行五反田支店	ガスクロマトグラフィー研究懇談会	2,198,477
	りそな銀行五反田支店	高分子分析研究懇談会	6,008,006
	大阪信用金庫杉本町支店	X線分析研究懇談会	2,107,124
	福岡銀行周船寺支店	分析試薬研究懇談会	393,007
	りそな銀行五反田支店	液体クロマトグラフィー研究懇談会	4,782,435
	三井住友銀行中もず支店	化学センサー研究懇談会	69,221
	十六銀行黒野支店	電気泳動分析研究懇談会	537,555
	荘内銀行宝田支店	電気泳動分析研究懇談会	573,278
	もみじ銀行西条支店	イオンクロマトグラフィー研究懇談会	2,051,932
	福岡銀行姪浜支店	フローインジェクション分析研究懇談会	1,533,253
	三菱東京UFJ銀行平塚支店	熱分析研究懇談会	204,824
	三井住友銀行八千代支店	レアメタル分析研究懇談会	6,865
	京都銀行下鴨支店	電気分析化学研究懇談会	26,920
	みずほ銀行渋谷中央支店	バイオ分析研究懇談会	30,020
	三菱東京UFJ銀行上野支店	スクリーニング分析研究懇談会	29,244
	七十七銀行新伝馬町支店	第67回年会実行委員会が使用	1,970,994
	ゆうちょ銀行(通常貯金)		5,224,476
		討論会	829,341
		近畿支部	578,198
		九州支部	1,866,308
		受託分析研究懇談会	809,030
		溶液界面研究懇談会	22,427
		有機微量分析研究懇談会	1,004,256
		イオンクロマトグラフィー研究懇談会	62,455
		溶液反応化学研究懇談会	22,461
		ナノ・マイクロ化学分析研究懇談会	30,000
	ゆうちょ銀行(口座振替)	運営資金として	25,607,634
		本部	19,962,844
		大口口	23,000
		環境分析研究懇談会	522,411
		有機微量分析研究懇談会	560,762
		X線分析研究懇談会	426,518
		イオンクロマトグラフィー研究懇談会	40,000
		フローインジェクション分析研究懇談会	1,717,817
		表示・起源分析技術研究懇談会	2,317,610
		レアメタル分析研究懇談会	36,672
	定期預金		7,347,868
	りそな銀行御堂筋支店	近畿支部	505,912
	広島銀行西条支店	中国四国支部	1,300,000
	りそな銀行五反田支店	高分子分析研究懇談会	1,275,426
	りそな銀行五反田支店	液体クロマトグラフィー研究懇談会	4,266,530

売掛金	標準物質、教育 DVD	公益目的事業での販売商品に対する未収額	1,908,144
未収入金	広告料、雑誌	公益目的事業で発行している雑誌の別刷印刷 雑誌に掲載している広告料に対する未収額	4,575,812
前払金	討論会・年会実行委員会他		2,153,935
討論会		第78回討論会実行委員会	170,679
年会		第67回年会実行委員会	29,006
その他		業者委託費	1,954,250
棚卸資産	会誌/標準物質/教育DVD/分析士解説書	公益目的事業で販売している商品	25,632,233
標準物質			22,004,989
DVD			2,198,000
分析士解説書			1,392,160
その他			37,084
貯蔵品	切手、印紙、はがき、	公益目的事業及び法人の管理業務で使用	151,155
一年以内回収長期貸付金	職員住宅購入資金貸付	長期貸付金の一年以内回収予定額	199,920
仮払金			516,308
労働保険料		労働保険料未精算分	516,308
流動資産合計			198,338,819
(固定資産)			
基本財産			
定期預金	三井住友信託銀行芝営業部	運用益を管理費の財源として使用	10,000,000
特定資産			
退職給付引当資産		職員の退職金の支払いのために使用	2,267,420
普通預金	みずほ銀行五反田支店		2,267,420
標準物質開発基金		支払の財源として使用 標準物質開発事業の積立資産であり、 運用益を本事業の財源として使用	34,782,099
普通預金	三井住友銀行五反田支店		14,782,099
定期預金	三井住友銀行五反田支店		20,000,000
預り保証金引当預金			11,000,000
定期預金	三井住友信託銀行芝営業部	会誌広告で(株)明報社から受け入れた預金 であり、運用益を本事業の財源として使用	10,000,000
定期預金	三井住友信託銀行芝営業部	標準物質の販売で西進商事(株)から受入れた 預金で運用益を本事業の財源として使用	1,000,000
国際交流事業基金		研究会事業の積立資産であり、運用益を 本事業の財源として使用	19,143,606
普通預金	三井住友銀行五反田支店		19,143,606
分析化学研究奨励基金		公益目的保有財産であり、運用益を研究の奨 励及び研究業績の表彰事業の財源として使用	8,377,585
定期預金	三井住友信託銀行芝営業部		8,377,585
分析技術教育基金		講演会事業の積立資産であり、運用益を 本事業の財源として使用	12,985,933
普通預金	三井住友銀行五反田支店		2,985,933
定期預金	三井住友銀行五反田支店		10,000,000
支部研究懇談会特定預金		各支部研究懇談会の積立資産であり、運用益 を本事業の財源として使用	21,296,407
普通預金	北洋銀行本店営業部	北海道支部	0
	七十七銀行大学病院前支店	東北支部	4,516,109
	みずほ銀行名古屋支店	中部支部	3,571,342
	りそな銀行御堂筋支店	近畿支部	1,601,252
	もみじ銀行西条支店	イオンクロマトグラフィー研究懇談会	1,623,010
	三菱東京UFJ銀行藤ヶ丘支店	フローインジェクション分析研究懇談会	975,283
	大阪信用金庫杉本町支店	X線分析研究懇談会	2,328,015
定期預金	みずほ銀行五反田支店	関東支部	1,659,839
	りそな銀行五反田支店	高分子研究懇談会	3,022,639
	りそな銀行五反田支店	液体クロマトグラフィー研究懇談会	1,998,918

その他 固定資産	建物	220.4 m ² 東京都品川区西五反田		10,756,023
	器具備品	東京都品川区西五反田	主たる事務所で保有し、公益目的事業及び法人の管理業務で使用	15,130
	土地	30.22 m ² 東京都品川区西五反田	主たる事務所 公益目的事業及び法人の管理業務で使用している	30,607,799
	電話加入権	3490-3351 他 6 本	公益目的事業及び法人の管理業務で使用	28,000
	敷金 長期貸付金	近畿支部 職員住宅購入資金貸付	入居している大阪科学センターに対する敷金	100,000 1,927,800
固定資産合計				163,287,802
資産合計				361,626,621
(流動負債)				
	未払金	環境テクノス他	標準物質管理業務に対する未払額など	9,547,598
	前受会費	翌年度の会費の前受額	会員からの翌年度分の会費の前受額	38,103,800
	前受金	高分子分析研究懇談会他	翌年度実施技術講習会の前受額	2,375,000
	前受購読料	翌年度購読料の前受額	公益目的事業で発行する雑誌購読料の前受額	3,656,800
	預り金	所得税 社会保険料等		1,288,810
	討論会			23,000
	健康保険料			141,660
	厚生年金保険料			235,155
	源泉所得税			191,775
	住民税			243,500
	その他			453,720
	仮受金			69,865
	賞与引当金	職員5名の夏期賞与	職員5名の夏期賞与の支払いに備えたもの	2,297,493
	未払消費税等			2,163,300
流動負債合計				59,502,666
(固定負債)				
	退職給付引当金	職員5名の退職金	職員5名の退職金の支払いに備えたもの	40,537,631
	預り保証金	(株)明報社	会誌広告に関して受け入れたもの	11,000,000
		西進商事(株)	標準物質の販売に関して受入れたもの	
固定負債合計				51,537,631
負債合計				111,040,297
正味財産				250,586,324

監事監査報告書

平成 30 年 3 月 29 日

公益社団法人 日本分析化学会
会長 岡田 哲男 殿

公益社団法人 日本分析化学会

監事 丹羽 修 

監事 早川 和 

私たち監事は、公益社団法人 日本分析化学会の平成 29 年 3 月 1 日から平成 30 年 2 月 28 日までの平成 29 年度の監査を日本分析化学会監事監査規程に基づき実施しましたので、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、日本分析化学会監事監査規程第 7 条に定める監査事項について、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人に必要に応じて説明を求め、業務及び財産の状況を調査いたしました。

また、平成 29 年度事業報告書を受領し、さらに、計算書類（貸借対照表、正味財産増減計算書、正味財産増減計算書内訳表、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書並びに財産目録を受領し、これらの書類について監査しました。

2. 監査結果

- 一、事業報告書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示していると認めます。
- 二、理事の職務の執行に関する不正行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三、計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、当公益社団法人の財産及び損益の状況を重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

2018年度(平成30年度)
事業計画書
(平成30年3月1日～平成31年2月28日)

1. 定時総会の開催(定款第17条)

第7回定時総会を下記のとおり行う。

日時 平成30年4月24日(火)14時30分より

場所 アリアル会議室 ANNEX 五反田

(東京都品川区西五反田1-3-8 五反田御幸ビル2階)

参加予定者数120人。

2. 会誌、研究報告および資料の刊行(定款第5条(1))

① 学会誌「ぶんせき」を下記のとおり発行する。

2018年第3号～2019年第2号 毎月1回、5日に発行(各号A4判、100ページ)

発行部数5,900

② 和文論文誌「分析化学」を下記のとおり発行する。

第67巻第3号～第68巻第2号を毎月1回、5日に発行(各号A4判、70ページ)

発行部数2,000

③ 英文論文誌「Analytical Sciences」を下記のとおり発行する。

Vol.34, No.3～Vol.35, No.2を毎月1回、10日に発行(各号A4判、136ページ)

発行部数620

④ 英文論文誌「X-ray Structure Analysis Online」を下記のとおり発行する。

Vol.34, No.3～Vol.35, No.2を毎月1回発行(webのみによる無料公開)。

⑤ メールマガジンを発行する。

⑥ 「分析士試験問題の解説」(本会)等の書籍を出版する。

3. 講演会、講習会および研究会の開催(定款第5条(2))

各支部ならびに研究懇談会が主催するものは別に記載する。

① 研究発表会

※第78回分析化学討論会を下記のとおり行う。

日時:平成30年5月26日(土)・27日(日)

場所:山口大学常盤キャンパス(宇部市)参加予定者数750人、演題数400件

産業界R&Dポスター紹介も併せて行う予定。

※第67年会を下記のとおり行う。

日時:平成30年9月12日(水)～14日(金)

場所:東北大学川内北キャンパス(仙台市)参加予定者数1,300人

演題数800件

② 講習会 参加予定者数:合計300名

予定テーマ

水中の微量金属成分分析講習会

金属分析技術セミナー

ダイオキシン類分析技術セミナー

セラミックス原料・鉱石類分析技術セミナー

分析化学基礎セミナー(無機分析編)

分析化学の基本と安全セミナー

分析化学における不確かさ研修プログラムセミナー

4. 調査、研究および建議（定款第5条（3））

① JIS

- (1) 平成27年度区分Cの日本規格協会の委託に基づき、「分析化学用語（熱分析部門）」新規制定の原案作成を昨年度に引き続き実施する。日本鉱業標準調査会での審議を経て平成30年度中に発行予定である。
- (2) 平成29年度区分Bの日本規格協会の委託に基づき、JIS K 0050「化学分析方法通則」の改正原案作成を行い、平成30年10月発行予定である。
- (3) 日本規格協会の委託に基づく平成30年度の原案改正として、JIS Z 2613「金属材料の酸素定量方法通則」を計画している。

日本規格協会より受諾した下記の制定案のフォロー及び公募予定の下記案件を改正する。

② 技能試験

参加予定試験所数：合計 280 試験所

ISO/IEC17043 に基づく分析試験所技能試験を行う。

予定テーマ

ダイオキシン類成分分析	70 試験所
プラスチック中有害金属成分の分析	70 試験所
トレーサビリティと不確かさ理解のための分析技能試験	20 試験所
食品分析技能試験	40 試験所
放射能分析技能試験	60 試験所
残留農薬分析技能試験	20 試験所

③ 標準物質

これまで開発してきた各種標準物質の社会への供給活動を継続して実施する。そのために在庫切れの補給と安定性試験を行う。

- ・在庫切れ品の補給：河川水標準物質
- ・安定性試験：プラスチック、ダイオキシン（土壌）、河川水 各標準物質

④ 教育用 DVD

現在頒布中の教育用ビデオを発展させた DVD 教材の開発のために作業を行う。

5. 研究の奨励および研究業績の表彰（定款第5条（4））

- ① 学会賞、学会功労賞、技術功績賞、奨励賞、有功賞、「分析化学」論文賞、先端分析技術賞ならびに女性 Analyst 賞を下記のとおり表彰する。

学会賞（3名以内）、学会功労賞（5名以内）、技術功績賞（3名以内）、奨励賞（5名以内）、有功賞（50名程度）、「分析化学」論文賞（1名）
先端分析技術賞（3名以内）、女性 Analyst 賞（2名以内）

- ② 他機関による表彰および研究助成に対して会員を候補者として推薦する。

6. その他目的を達成するために必要な事業（定款第5条（5））

- ① 分析士認証試験を次のとおり行う。

液体クロマトグラフィー分析士認証試験 初段～五段の各段位

LC/MS 分析士認証試験 初段～五段の各段位

イオンクロマトグラフィー分析士 初段、二段

- ② 分析士会を開催して講演会等の活動を行う。

- ③ アジアの分析化学者との連携をはかるために Asian Analytical Chemistry Network のホームページを運用する。

- ④ 本会の活動ならびに学術・技術の重要性をホームページ、各種展示、分析化学討論会および年会におけるハイライト講演をまとめた冊子「展望とトピックス」の発行および記者会見などを通じて広報する。

- ⑤ 若手交流会の活動を次のとおり行う。

各支部の若手交流会企画に対して共催・支援を行う。

分析化学討論会及び年会において若手ポスター賞選考を行う。

7. 各研究懇談会の事業計画

①有機微量分析研究懇談会

委員会を2回、第85回有機微量分析研究懇談会シンポジウム（計測自動制御学会・力学量計測部会と共催、日本分析化学会、日本化学会、日本薬学会協賛）を6月に東京都八王子市（首都大学東京南大沢キャンパス国際交流会館）、講演会（第67年会会期中）、第14・15回マイクロ電子天びん技術研修会、および第7回マイクロ電子天びんセミナー（座学）を開催するほか、会報第20号（2019年2月）を発行する。

②ガスクロマトグラフィー研究懇談会

例会を数回、特別講演会、講習会（実習付含む）を開催する。例会の中で基礎講座を開催する（受講証を発行）。地方での研究懇談会活動を行う。分析化学年会で特別講演会を開催する。本部運営となった日中韓シンポジウムの開催（中国）に協力する。JAIMAコンファレンスで講習会・講演会を実施する。ガスクロマトグラフィー誕生60周年事業としてアーカイブを作成する。研究懇談会設立60周年記念事業・表彰・受賞講演を行う。講習会用テキストを整備する。研究懇談会活動の過去ログ、講演会資料等をホームページで公開する。運営委員会を隔月で開催する。

③高分子分析研究懇談会

例会を5回（うち1回は1泊2日の夏期合宿として開催）、高分子分析技術講習会を2回（前期：基礎編、後期：応用編）、第22回高分子分析討論会を開催する。

④X線分析研究懇談会

例会を数回（うち1回は年会時に開催）、第10回講習会—蛍光X線分析の実際（7月、東京理科大）と第54回X線分析討論会（10月、東京理科大）を開催するほか、「X線分析の進歩」誌（49集）を出版する。運営委員会は2回開催する。

⑤分析試薬研究懇談会

第67年会での講演会と幹事会および第16回ホスト・ゲスト・超分子化学シンポジウム（共催：東京理科大学野田キャンパス、6月）での招待講演を開催する。

⑥溶液界面研究懇談会

講演会、懇談会をそれぞれ1回（第67年会会期中）開催するほか、電子メールによる情報交換を行う。また、年会において界面に関するセッションを継続して開催できるよう年会実行委員会への働きかけを行う。

⑦液体クロマトグラフィー研究懇談会

運営委員会を11回、例会を12回（うち1回は年会時に開催）、液体クロマトグラフィー特別講演会・見学会を2回、第24回LC & LC/MSテクノプラザ、LC- & LC/MS-DAYS 2018を開催する。関東支部機器分析講習会第2コース「HPLCとLC/MSの基礎と実践」、JAIMAセミナーにおけるHPLC講習会などを支援する。「LC/MS, LC/MS/MS Q & A 100 獅子の巻」の出版に向け、査読会を実施する。

⑧化学センサー研究懇談会

化学センサー・バイオセンサーをはじめ、関連分野の研究懇談会講演会（9月、分析化学会年会会期中）を開催する。また必要に応じて他の研究懇談会とのジョイント講演会を開催する。

⑨電気泳動分析研究懇談会

講演会を1回（分析化学会年会会期中）開催するほか、第38回キャピラリー電気泳動シンポジウム（SCE 2018）（12月、大阪）を共催する。電気泳動分析研究懇談会賞（寺部茂賞）の選考、表彰を行う。また、本懇談会ホームページ（HP）の整備を行い、シンポジウムの要旨集アーカイブのHP上での公開ほか、プロトコール集の作成・掲載など内容の充実を図る。

⑩イオンクロマトグラフィー研究懇談会

IC講習会、SS講演会（9月、JAIMA）、IC講演会（9月、第67年会、東北大学）を予定。日中韓分析化学シンポジウム（中国開催）にGC、HPLC、FIA、環境分析各研究懇談会と協力する。第35回IC討論会（12月、東京）を予定。運営委員会を3回開催予定。IC分析士認証試験（初段、二段）の実施を予定。

⑪フローインジェクション分析研究懇談会

第55回FIA講演会（11月、芝浦工業大学）を開催する。褒賞委員会を第67年会（9月、東北大学）会期中に開催する。第78回分析化学討論会（5月、山口大学）および第55回FIA講演会会期中に「Journal of Flow Injection Analysis」（JFIA）誌編集委員会を開催するほか、第55回FIA講演会中にJAFIA委員会を開催する。JFIA誌を2回（6月、12月）発行する。JAIMAセミナー（9月、幕張メッセ）において「これであなたも専門家-流れ分析編」に共催する。日中韓分析化学シンポジウム（11月、中国）に対して、GC、HPLC、IC、環境分析研究懇談会と合同で開催に協力する。また14th Flow Analysis（12月、タイ）の開催に協力する。

⑫環境分析研究懇談会

講演会を2回（第67年会会期中および6月または12月）、運営委員会を1回（第67年会会期中）開催する。また、他の研究懇談会や研究会との交流を深め、必要に応じてジョイント講演会を開催する。会員拡充とメーリングリストの作成に努め、それを活用した情報交換も適宜行う。

⑬表示・起源分析技術研究懇談会

講演会を3回（第67年会会期中および年度前半・後半）、運営委員会を2回開催する。

⑭レアメタル分析研究懇談会

講演会を2回（第67年会会期中および6月または12月）、運営委員会を1回（第67年会会期中）開催する。また必要に応じ他の研究懇談会とのジョイント講演会を開催する。なおメーリングリストを作成し、適宜情報交換を行う。

⑮熱分析研究懇談会

講演会を2回（9月、第67年会会期中および12月）開催予定。またメーリングリストを活用し、情報交換を行う。分析化学用語（熱分析）JIS原案の完成。

⑯溶液反応化学研究懇談会

講演会を1回と懇談会を1回（いずれも日本分析化学会第67年会中）開催する。EMLG/JMLG Meeting 2018/第41回溶液化学シンポジウム（11月、名古屋）を共催する。メーリングリストを作成し適宜情報交換を行う。

⑰受託分析研究懇談会

総会とセミナー（11月）および見学会（6月）を各1回行う他、例会（技術情報交換会および運営委員会）を4回開催する。他の研究懇談会等とも交流を深めるとともに、会員間の情報交換を活発に行い、会員拡充を図る。

⑱電気分析化学研究懇談会

第67年会会期中に、依頼講演による講演会および運営委員会を各1回、開催するほか、メールによる情報交換を行う。HPの充実、会員の募集を図る。第68討論会でのシンポジウムについて計画する。国際学会における協力・共同について議論する。

⑲ナノ・マイクロ化学分析研究懇談会（平成29年度新設）

講演会、懇談会を各1回（第67年会会期中）開催するほか、同分野の会議情報などの交換を行う。年々応用分野が広がるナノ・マイクロ分析の発展を加速させるため、近い分野の本会会員に講演を依頼するなどの取り組みを行う。

⑳バイオ分析化学研究懇談会（平成29年度新設）

本研究懇談会は、バイオ分析化学の研究者間での情報交換や交流、共同研究の促進等を目的として、分析化学会年会でのシンポジウムを企画する。さらに、学術雑誌（*Analytical Sciences*等）においてバイオ分析関連の特集号企画を進める。また、発足2年目を迎え、運営委員会をさらに拡充・充実させると共に、ホームページなどでバイオ分析研究懇談会をアピールして会員増強を図る。

㉑スクリーニング分析研究懇談会（平成29年度新設）

講演会を2回（年度前半・後半）開催する予定。またメーリングリストを活用し、情報交換を行う。

8. 各支部の事業計画

定款第5条の事業を次のとおり行う。

【北海道支部】

1. 研究発表会：夏季研究発表会（7月上旬）、冬季研究発表会（1月中旬）を開催する。
2. 講演会：化学教育研究協議会（11月上旬）を開催する。
3. セミナー：第34回分析化学緑陰セミナー（7月）、公開セミナー（9月）、第54回氷雪セミナー（1月上旬）を開催する。
4. 支部ニュースの発行：7月、12月（年2回）

【東北支部】

1. 研究発表会：みちのく分析科学シンポジウム2018、平成30年度化学系学協会東北大会を開催する。
2. 講演会：各地区講演会を開催する。
3. セミナー：分離機能とセンシング機能の化学セミナー2018、第35回無機・分析化学コロキウム、平成30年度日本分析化学会東北支部若手交流会を開催する。

【関東支部】

1. 講習会：第59回機器分析講習会、分析化学基礎実習講座を開催する。
2. 講演会：新潟地区部会研究発表会、茨城地区分析技術交流会、新世紀賞・新世紀新人賞講演会、千葉地区交流会、新年交流会のほか、随時開催する。
3. セミナー：分析化学若手交流会のほか、随時開催する。
4. 支部ニュースの発行ほか常任幹事会で必要と認められた事項を行う。

【中部支部】

1. 研究発表会：第49回中部化学関係学協会支部連合秋季大会（11月、名古屋大学）を共催の予定。
2. 講演会：愛知・岐阜・福井での地区講演会、および研究者招聘講演会の開催を予定
3. 講習会：第28回基礎および最新の分析化学講習会を開催の予定。
4. セミナー：第37回分析化学中部夏期セミナー（8月30日・31日、福井市）、「分析中部・ゆめ21」若手交流会・第18回高山フォーラム（11月16日・17日、高山市図書館）を開催の予定。

【近畿支部】

1. 講演会：支部講演会（4月、7月、12月）、近畿分析技術研究奨励賞受賞講演会（3月）を開催の予定。
2. 講習会：ぶんせき講習会・基礎編（1、2）（5月、6月）、同・実践編（第65回機器による分析化学講習会）（7月）、同・発展編（11月）を開催の予定。
3. セミナー：提案公募型事業（随時）、第12回平成夏季セミナー「ぶんせき秘帖」（8月、福井市）を中部支部と合同で開催予定。
4. 支部ニュースの発行（3回の発行予定）
5. 近畿支部創設65周年記念事業（式典・講演会、11月2日、大阪市立大学）を開催予定

【中国四国支部】

1. 講演会：岡山・広島・周南・山口・愛媛・徳島・鳥取・島根・高知地区講演会、外国人学者講演会を開催の予定。
2. 講習会：第55回分析化学講習会（6月、徳島）を開催の予定。
3. セミナー：第24回中国四国支部分析化学若手セミナー（6月、徳島）を開催の予定。

【九州支部】

1. 研究発表会：第55回化学関連支部合同九州大会（6月）を開催の予定。
2. 講演会：第31回春の研究講演会（5月）、第36回夏季セミナー（7月）、支部講演会・見学会（11月）のほか、機器分析ワークショップや外国人講演会を随時開催の予定。
3. 講習会：第59回分析化学講習会（8月）を開催の予定。
4. その他：地区懇話会、支部ニュースの発行などを行う予定。1. 研究発表会：第55回化学関連支部合同九州大会（6月）を開催の予定。

平成30年度予算書

(平成30年3月1日～平成31年2月28日)

(単位:円)

科 目	平成30年度予算額	平成29年度予算額	増 減 (対平成29年度計画)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	20,000	20,000	0
基本財産受取利息	20,000	20,000	0
特定資産運用益	16,000	19,000	-3,000
退職給付引当資産	100	1,000	-900
標準物質開発基金	5,800	7,000	-1,200
国際交流事業基金	2,900	1,000	1,900
分析化学研究奨励基金	200	3,000	-2,800
分析技術教育基金	2,000	3,000	-1,000
預り保証金引当預金	3,000	3,000	0
支部研究懇談会特定預金	2,000	1,000	1,000
受取入会金	195,000	155,000	40,000
受取入会金	195,000	155,000	40,000
受取会費	89,141,000	102,160,000	-13,019,000
正会員受取会費	36,000,000	39,990,000	-3,990,000
学生会員受取会費	1,890,000	2,850,000	-960,000
維持会員受取会費	16,758,000	20,450,000	-3,692,000
特別会員受取会費	16,500,000	19,730,000	-3,230,000
公益会員受取会費	10,656,000	10,250,000	406,000
支部研究懇談会受取会費	7,337,000	8,610,000	-1,273,000
賛助会員受取会費	0	280,000	-280,000
事業収益	135,952,000	129,384,000	6,568,000
購読料収入	7,000,000	8,300,000	-1,300,000
年会収入	10,000,000	12,745,000	-2,745,000
討論会収入	14,035,000	12,000,000	2,035,000
講演会収入	6,653,000	4,970,000	1,683,000
講習会収入	23,509,000	23,000,000	509,000
研究懇談会収入(含む若手の会)	370,000	1,020,000	-650,000
技能試験収入	13,000,000	11,000,000	2,000,000
分析士事業収入	4,500,000	4,590,000	-90,000
SS収入	0	0	0
印税収入	575,000	630,000	-55,000
教材頒布収入	2,300,000	2,390,000	-90,000
標準物質収入	20,000,000	21,200,000	-1,200,000
広告料収入	26,430,000	24,000,000	2,430,000
別刷頒布収入	5,800,000	2,700,000	3,100,000
複写権使用収入	200,000	239,000	-39,000
JIS改正受託収入	380,000	500,000	-120,000
事務委託収入	1,200,000	100,000	1,100,000
受取補助金等	20,230,000	19,500,000	730,000
受取国庫補助金	20,200,000	18,500,000	1,700,000
受取民間補助金	0		0
自治体補助金	30,000	1,000,000	-970,000
受取寄付金	470,000	100,000	370,000
受取寄付金	470,000	100,000	370,000
雑収益	768,000	829,000	-61,000
受取利息収入	54,000	129,000	-75,000
雑収入	714,000	700,000	14,000
経常収益計	246,792,000	252,167,000	-5,375,000

平成30年度予算書

(平成30年3月1日～平成31年2月28日)

(単位:円)

科 目	平成30年度予算額	平成29年度予算額	増 減 (対平成29年度計画)
(2)経常費用			
事業費	198,322,000	199,650,000	-1,328,000
給与手当	22,000,000	24,720,000	-2,720,000
臨時雇賃金	18,500,000	18,630,000	-130,000
退職給付費用	1,600,000	1,000,000	600,000
法定福利費	6,200,000	3,240,000	2,960,000
会議費	21,220,000	22,000,000	-780,000
旅費交通費	17,820,000	19,000,000	-1,180,000
通信運搬費	3,500,000	3,700,000	-200,000
減価償却費	630,000	1,500,000	-870,000
修繕費	750,000	820,000	-70,000
消耗品費	4,570,000	5,070,000	-500,000
印刷製本費	31,000,000	29,000,000	2,000,000
光熱水料費	190,000	210,000	-20,000
賃借料	1,600,000	1,200,000	1,480,000
支払リース料	800,000	1,100,000	-300,000
支払保険料	75,000	80,000	-5,000
諸謝金	8,460,000	8,500,000	-40,000
租税公課	5,400,000	530,000	4,870,000
支払負担金	640,000	840,000	-200,000
支払助成金	710,000	740,000	-30,000
内部支払助成金	5,480,000	14,000,000	-8,520,000
委託費	38,000,000	40,000,000	-2,000,000
表彰費	2,330,000	2,600,000	-270,000
雑費	1,547,000	750,000	797,000
会長企画戦略経費	5,000,000	1,500,000	3,500,000
記念行事費	300,000	0	300,000
管理費	48,470,000	51,477,000	-3,007,000
給与手当	15,000,000	14,800,000	200,000
臨時雇賃金	10,000,000	10,900,000	-900,000
退職給付費用	400,000	350,000	50,000
法定福利費	1,500,000	3,300,000	-1,800,000
福利厚生費	60,000	70,000	-10,000
会議費	270,000	350,000	-80,000
旅費交通費	3,200,000	3,600,000	-400,000
通信運搬費	1,500,000	1,700,000	-200,000
減価償却費	35,000	50,000	-15,000
修繕費	550,000	610,000	-60,000
消耗品費	1,000,000	1,161,000	-161,000
印刷製本費	300,000	390,000	-90,000
光熱水料費	123,000	132,000	-9,000
賃借料	210,000	239,000	-29,000
支払リース料	2,900,000	3,300,000	-400,000
租税公課	22,000	30,000	-8,000
支払負担金	1,700,000	1,790,000	-90,000
委託費	8,600,000	8,600,000	0
雑費	100,000	105,000	-5,000
会長企画戦略経費	1,000,000	0	1,000,000
経常費用計	246,792,000	251,127,000	-4,335,000
評価損益調整前当期増減額	0	1,040,000	-1,040,000
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	0	1,040,000	-1,040,000
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	1,040,000	-1,040,000
一般正味財産期首残高	250,679,053	208,872,445	41,806,608
一般正味財産期末残高	250,679,053	209,912,445	40,766,608
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	250,679,053	209,912,445	40,766,608